

# 2012年九州地区春季ディベート講座のご案内

主催 全国教室ディベート連盟九州支部  
共催 九州大学言語文化研究院・九州大学ディベートクラブ

中学生、高校生、大学生、教師、社会人を対象に、ディベート講座を開催します。ディベートについての基礎的な理解・技能の育成を目的としておりますので、初めての方もお気軽にご参加いただけます。「言語力」育成のための授業等へのディベート導入、ディベート大会出場の準備、コミュニケーション力や思考力等の能力開発にも役立ちます。多数のご参加をお待ちしております。

期 日 平成24年3月25日(日)

場 所 九州大学大橋地区 (福岡市南区塩原4-9-1)

(右記⑨参照：<http://www.kyushu-u.ac.jp/access/map/ohashi/ohashi.html>)

日 程 10:00~10:20 受付

10:20~10:30 開会

10:30~12:00 ディベート論題についての解説

論題Aコース：「日本は救急車の利用を有料化すべきである。是か非か」

\*有料化とは一回の利用につき定額の支払いを義務づけることとする。

\*有料化の対象はすべての利用者とする。

\*収入は、自治体の一般財源とし、用途を限定しないものとする。

講師 (依頼中)

論題Bコース：「日本は死刑制度を廃止すべきである。是か非か」

\*他の刑罰については変更を加えないものとする。

講師 (依頼中)

13:00~16:00 コース別研修 (各コース毎に閉会)

入門コース 講師 田本 正一 (九州支部専門委員・佐賀市立春日北小学校)

試合コース(論題A) 講師 佐長 健司 (九州支部支部長・佐賀大学)

加地 良光 (九州支部事務局長・TV-Q九州放送)

田本 嘉昭 (九州支部専門委員・みやき町立北茂安小学校)

坂井 満 (九州支部専門委員・佐賀市立神野小学校)

試合コース(論題B) 講師 池田 賢治 (九州支部副支部長・福岡工業大学)

鎌田 裕文 (九州支部専門委員・福岡ディベート研究会)

酒賀 匡 (九州支部専門委員・DEARくまもと)

参加費 中学生・高校生・大学生・会員：1,000円 教師・社会人：2,000円。

当日受付にてお支払いください。

その他 当日は、日曜日なので食堂は営業していません。昼食のご持参をお勧めします。

申し込み方法 **3月20日(火)までに、学校名、氏名(複数の場合全員の)、連絡先、希望コース名(試合コースの場合はチーム数)**を明記の上、下記に電子メールにてお申し込みください。緊急の場合などの、メールが使用不可能の場合は、携帯電話にご連絡をお願いします。

問い合わせ・申し込み先

講座事務局 森田 洋明 (九州支部専門委員・九州大学ディベートクラブ)

メール：[qdc.debate@gmail.com](mailto:qdc.debate@gmail.com) / 携帯電話(森田) 070-5402-9387

# コース別研修の内容について

全国教室ディベート連盟九州支部支部長 佐長 健司

本年度の春期講座は、昨年ご参加頂いた皆様のご要望にお応えし、新たな試みを設けております。

過去の講座からの変更点をふまえて、下記2点をご案内させていただきます。

## 1. 入門コースについて

昨年までとは異なり、入門コースは論題のA、Bにかかわらず、原則として1クラスにまとめて研修を行います。すなわち、個別の論題に限定せず、ディベートに初めて触れる方を対象とした「ディベートの入門講座」という趣旨を明確にします。

具体的には、ディベート参観やルールの理解等を中心とする講座になります。初心者の方は、こちらにご参加ください。また、基礎的なディベート指導について知りたいとご希望の指導者の方にもふさわしいと考えております。ただし、申込み人数が多いなどの理由で、1クラスでの実施が難しい場合は、論題Aと論題Bとの2クラスに分かれることもあります。なお、ディベート経験はある方は、下の試合コースへの参加をお勧めします。

## 2. 試合コースについて

例年どおり、論題AあるいはBに応じて、作成した立論をご持参ください。立論は完全なものでなくても構いません。肯定側、否定側のいずれか1つでも構いません。また、収集した資料や作成した証拠資料等も、可能な範囲でご持参ください。不完全な立論でしかなく、フォーマット変更による短時間の試合であっても、実際に試合経験を積むことが重要です。そこで、午後のコース別研修に入る前に、試合コースに参加される各チームの準備状況、ご要望を把握し、それらに対応するように務めます。たとえば、立論の作成等において、同程度の準備をしているチーム同士の対戦を組むことなどが考えられます。また、単に試合と講評・判定だけでなく、通常よりも短いフォーマットにして準備時間を長めにとったり、準備時間の間にも指導を挟んだりすることも可能です。他にも、証拠資料を読み上げない試合なども考えられます。いずれにしても、ご要望いただければ、できる限り対応します。さらには、作成した立論の検討についても、遠慮なくお申し出下さい。

実りある楽しい講座にしたいと考えていますので、皆様の積極的なご参加をお待ちしております。